

雑誌掲載論文紹介

中国原油輸入の拡大について\*

戦略・産業ユニット 石油・ガスグループ 主任研究員 郭 四志

2006年、中国の原油輸入量は前年同期比15%以上増加の1億4,500万トンとなっている。また、原油輸入拡大に伴い、原油輸入の地域構成も変化している。その原因を探り、今後の中国石油輸入動向を以下概観してみる。

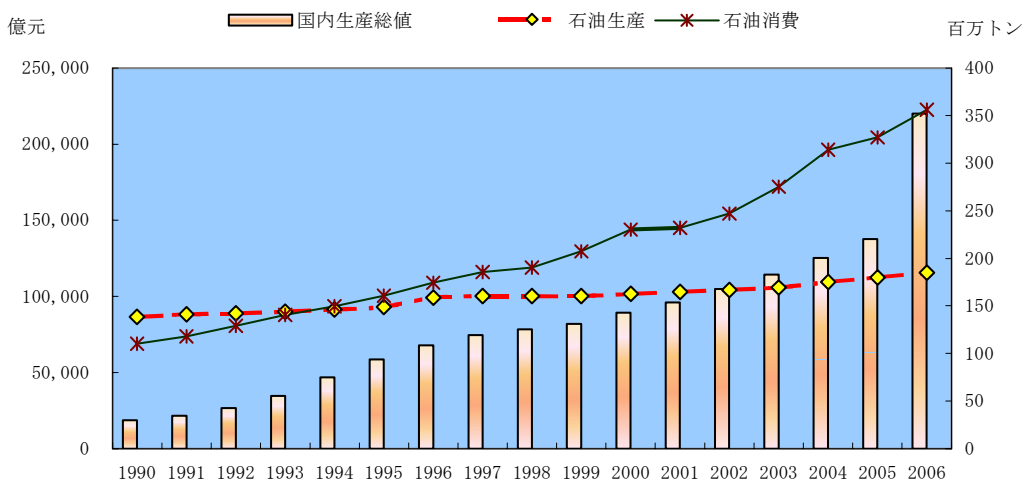
2006年中国の原油輸入が増加した理由として、以下にいくつか挙げられる。

第1は、堅調な経済成長である(図表1)。中国国家発展改革委員会によると、2006年の中国GDPは20兆元に達し、前年比10.5%と大幅に増加した。産業用、業務用の需要の拡大、特にモータリゼーションの急速な進展に伴い、石油消費は前年比約9%増加の3億5,600万トンとなる見通しである。

第2は、国内原油生産は微増に止まっており、なかなか石油需要の増大に追付かない状態にある。2006年の中国国内の原油生産量は去年よりわずか2.2%増の1億8500万トンの見通しである。

そのうち、PetroChina(中国石油天然ガス有限公司)の原油生産量は1億660万トンで、Sinopec Corp(中国石油天然ガス有限公司)の生産量は4,400万トンで、CNOOC Ltd(中国石油天然化工有限公司)は3,000万トン以上の見通しとなっている。CNOOCとSinopecが前年より7%、10%増加したのに対し、PetroCinaの国内生産は横ばいとなっている。これは大慶など同社の東部主力油田の生産低迷・減産によるものである。

図表1 中国石油需給ギャップの拡大



出所：中国国家統計局『中国統計摘要』中国統計出版社2004年、BP統計などより作成。

\*本文は 中国産業動向季報 2007年春号に掲載されたものに転載許可を得て掲載致しました。

第3は戦略石油備蓄基地の原油備蓄がスタートしたことである。

中国戦略石油備蓄基地の備蓄が10月スタートした。鎮海備蓄基地のタンクに、2006年10月初旬300万バレルのロシア原油を注入し、同年12月にさらに400万バレルを注入する予定であった。また、舟山基地の一部プロジェクト(備蓄能力120万m<sup>3</sup>)は、2007年2月に完成、青島基地は2008年4月に備蓄開始と見られている。中国の戦略備蓄体制のスタートは、輸入の拡大をもたらした一因だと考えられる。

また、昨年8月以来の原油価格の低下が、原油輸入のペースを増幅している。

2006年の中国の石油輸入拡大には大きな特徴があげられる。すなわち地域別には、原油輸入の対中東依存度が低下し、アンゴラなどのアフリカ地域、中央アジア・ロシア、南米からの輸入割合が上昇している。2006年(1~11月)の石油の対中東依存度は前年同期比の48%から45%へ下げた。これは上述のアンゴラ、中央アジア、南米の非中東地域の輸入拡大により、もたらされたものである。

中国の2006年(1~11月)の地域別原油輸入量をみると、①アンゴラ(2,184万トン)、②サウジアラビア(2,140万トン)、③イラン(1,604万トン)、④ロシア(1,485万トン)、⑤オマーン(1,154万トン)、⑥コンゴ(504万トン)、⑦赤道ギニア(452万トン)、⑧スーダン(365万トン)、⑨リビア(327万トン)、⑩カザフスタン(264万トン)の順となっている(図表2参照)。

図表2 中国における国・地域別原油輸入

国名・地域	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006年(1~11月)	構成比%	対前年同期比(%)
オマーン	15,660.80	8,140.40	8,045.90	9,277.40	16,347.80	10,834.60	11,540.20	9	17.5
イエメン	3,612.40	2,286.90	2,261.70	6,996.80	4,912.20	6,978.50	4,459.40	4	-28
イラン	7,000.50	10,847.00	10,630.00	12,388.90	13,237.40	14,272.80	16,036.10	12	15.7
サウジアラビア	5,730.20	8,778.40	11,390.40	15,176.20	17,244.30	22,178.90	21,404.10	16	6.9
イラク	3,183.20	372.1	536.8		1,306.50	1,645.70	911	1	-22.2
クウェート	433.4	1,459.80	10,697.00	907.2	1,254.00	2,567.70	2,642.70	2	60.6
UAE	430.5	649.8	-	863.5	1,343.90	2,567.70	2,909.10	2.2	26
その他	1,598.90	1,325.60	457.6	755.1	142.4	343.2	333.6	1	-2.8
中東計	37,649.90	33,859.90	34,392.20	46,365.10	55,788.50	599,919	60,236.10	45.1	8.8
インドネシア	4,575.20	2,645.10	3,237.50	3,333.70	3,428.60	4,085.20	2,063.60	1.5	-45.4
ベトナム	3,158.50	3,362.40	3,542.80	3,505.90	5,348.20	3,195.50	873.5	0.7	-71
オーストラリア	1,108.40	709.1	1,156.40	1,779.30	1,510.20	232.4			
マレーシア	744.3	899.5	1,648.70	2,031.00	1,691.50	347.9			
タイ	-	226.8	739.5	1,610.20	914.7	1,192.30	1,074.10	1	-5.5
フィリピン	-	-	-	37.7	257.6	107.4			
ブルネイ	275.5	753.9	1,295.80	1,358.50	882.8	501.5			
その他	1,026.70	85.9	229.6	139.1	127.9	21.7	1,493.70	2	-11.5
アジア太平洋計	10,613.10	8,682.60	11,850.10	13,853.50	14,161.60	9,683.90	4,942.40	3.7	-44.8
アンゴラ	8,636.60	3,798.90	5,705.10	10,101.50	16,208.20	17,462.80	21,840.20	17	41.8
ナイジェリア	1,186.60	772.5	487.9		1,489.00	1,310.20	553.7	1	-63.4
赤道ギニア	915.9	2,146.40	1,780.20	1,460.20	3,484.80	3,838.90	4,520.50	4	31.9
ガボン	457.3	147	-	277.6	548.3				
コンゴ	1,454.40	641.6	1,047.30	3,389.30	4,773.30	5,534.80	5,036.50	3.8	-3.8
スーダン	3,313.60	4,973.40	6,425.60	6,258.40	5,770.50	6,620.80	3,651.30	2.7	-41.2
リビア	130	250.4	-		1,338.50	2,259.20	3,269.80	3	58.3
その他	974.3	815.3	350.7	695	1,687.90	627.3	2,611.30	2	118.5
アフリカ計	16,948.60	13,545.40	15,796.70	22,182.00	35,300.30	38,470.50	41,381.5	31	18.2
イギリス	1,041.50	502	1,224.90	201.6	157.4				
ノルウェー	1,477.80	915.7	2,110.60	931.8	2,008.90				
ロシア	1,476.70	1,766.00	3,029.60	5,254.80	10,776.60	12,775.90	14,853.40	11.1	28.7
カザフスタン	724.2	649.6	1,003.60	1,198.20	1,285.60	1,290.00	2,638.20	2	129.1
アルゼンチン	-	-		131.3	713.6		1,569.80	1.2	80.2
ベネズエラ				443.8	334.2	1,927.90	4,202.80	3.1	252.6
その他	105.5	334.2			2,623.00	2,425.50	3,791.20	2.8	41.9
中央アジア・ロシア 南米等地域計	2,519.30	4,169.50	7,368.90	8,722.50	17,562.10	18,936.90	27,055.40	20.2	64.1
輸入合計	70,265.30	60,255.40	69,407.70	91,126.30	122,815.50	127,083.20	133,615.40	100	15.4

出所：ChinaOGP等より作成。

特に注目されるのは、非中東地域であるアンゴラ、中央アジア・ロシア、ベネズエラからの輸入が加速されたことである。

2006年(1~11月)に、アンゴラからの原油輸入は、前年同期比**42%**増加の**2,184**万ト

ンとなっており、サウジアラビアを抜き、中国の原油輸入国の第1位となっている。

また、ロシアからの輸入は前年同期比約 **29%**増の **1,485** 万トンで、カザフスタンは同 **130%**増の **264** 万トンで、ベネズエラは同 **253%**増の **420** 万トンであった。

中国原油輸入の地域別の変動は、中国政府が積極的にエネルギー外交の展開を通じて、供給戦略の一つである輸入ソースの多様化戦略を進めた結果である。近年中東情勢の緊張などで地政学的リスクの高くなった中東地域に依存しすぎることに、中国政府は強い不安感をもっている。

石油輸入ソースの多様化を確保する必要・緊急性が政府の上層部に強く認識されるようになってきている。政府は積極的に産油国との外交を進めている。例えば、中国政府のサポートの下で、**2005** 年末、カザフスタン→中国新疆間原油輸送パイプライン建設完成、さらに **2006** 年春正式に稼働させた。また、中国・アフリカ協力フォーラム、上海協力機構、ベネズエラなど南米とのエネルギー協力など、活発に原油輸入拡大などのエネルギー外交を展開した。

こうして、アフリカなどの非中東地域からの原油輸入が加速している。中国石油の対中東依存度は、**2006** 年に上述のように大幅に低下し、原油の輸入先が多様化しつつある。**2006** 年 **11** 月現在、中国の原油輸入先の割合は、中東地域が **45%**、アフリカが **31%**、中央アジア・ロシア、南米などの地域は **20.2%**、アジア太平洋地域が **4%**となっている。

中国の原油輸入地域別構造の変化の原因として、もう一点挙げられる。

すなわち、経済性により、アフリカ原油輸入を拡大したのである。中国では近年、原油生産が伸び悩んでおり、かつ割高なアジア太平洋油種に代わって、西アフリカからの輸入が急増している。

中国の製油所の多くは、もともと大慶など国産の低硫黄の原油を処理するための製油所で、設備の脱硫能力が限られているため、中東の重質サワー原油の輸入上限を定めている。アジアの低硫黄原油生産が減少した中、中東よりもむしろ西アフリカの低硫黄原油の輸入を増やす方が、石油企業にとってメリットがある。このことにより、アンゴラなどのアフリカ原油輸入の拡大がもたらされた。

要するに、今後も中国は経済成長に伴って石油消費が堅調に伸びる中で、国内の原油生産低迷により石油需給ギャップが益々拡大していく。それに伴い、石油の輸入はさらに増加し、特に石油供給先の多様化、原油油種の経済性の視点からアフリカ、中央アジア・ロシアなどの非中東地域からの原油輸入はさらに拡大するであろう。

お問い合わせ先 : report@tky.ieej.or.jp